

花と緑あふれる箕面に…

発行：みどりの街しんぶん編集委員会
〔連絡先／090-5651-0259 佐藤秀代〕

しんぶん

おじいさんの木、ありがとう！

箕面小

●130歳 とても長生きしました！

箕面小学校の運動場に生い茂っていた柿の木が130年の寿命を終え、このほど伐採されました。「おじいさんの木」第1号の名木だっただけに惜しまれますが、どっこい2代目がいま、中庭でスクスク伸び、かわいい実もつけています。

▼かつてこんな風景も（おおさか緑と樹木の診断協会写真提供）



この柿の木は、西小路光明寺から現在地に小学校が移転してきた明治42年（1909年）、すでに成木になっていたと言い伝えられています。戦前戦後を通じ多くの卒業生がこの木をバックに記念写真を撮って巣立っていました。渋柿だったので、子どもたちは毎年のように柿を縄に結わえ5段ほど並べて各教室の窓下に競うように吊るして干し柿にしたといいます。こんな話題が広まり8年前には「おおさか緑と樹木の診断協会」の「おじいさんの木」第1号にも指定されました。「森の中ならともかく、子どもたちが走り回る運動場の真ん中で、なぜこんなに長生きできたのか」と樹木医が驚くほどでした。



そんなシンボリックな木でしたが、4、5年ほど前から一部の枝が枯れ始め今年春ついに寿命がつきました。6月には全校児童や卒業生も加わり「お別れ会」を開き児童代表がお礼の言葉を送りました。7月上旬、樹木医らが立ち会って根こそぎ伐採しました。

柿の木2代目はスクスク育っています

●2代目に柿の実が生りました。

この日を予想して10年ほど前、初代のタネを子どもたちが中庭に蒔いていたのです。そのうち芽をふき、みんなで世話し続けた結果、いまでは2本が高さ5~6mにまで育っています。

伐採の翌日、1年生の児童が、2本の木に実がなっているのを偶然見つけました。森井國央校長は「伐採翌日に2代目の実が見つかるなんて…。初代に劣らず長生きしてくれることでしょう。子どもたちは初代、2代の柿の木からいのちの尊さ、自然の厳しさと暖かさなどをしっかりと学んでくれていることでしょう」と語っています。



▼早くも小さな実をつけている

▲スクスク伸びる2代目

↑ おじいさんの木
とは？ ↑

NPO「おおさか緑と樹木の診断協会」が、地域で大切にされている大きな木、珍しい木、由緒のある木の中から、特にその地域の人々とともに歴史を見守ってきた老木を「おじいさんの木」に指定している。現在、羽曳野市の道明寺天満宮のクスノキなど29本を指定、府民に保護を呼びかけている。

節電で「ゴーヤ」大人気!

ゴーヤの「みどりのカーテン」が、節電の呼びかけでこの夏いっきに広がりました。箕面4の五藤正紀さん方ではすぐ隣に植えた琉球朝顔と競うようにゴーヤが2階まで伸び、おかげでテラスからの照り返しはシャットアウト、自然のクーラーの役目を果たしてくれたそうです。箕面市立病院では小児科待合室外側の中庭に幅10m以上に広がりながら孔雀が羽根を広げるような形で伸び、厳しい日差しからこどもたちを守っていました。待合室には採れたばかりのゴーヤの実を自由に持ち帰ってもらうようかごに入れられました。

「みどりのカーテン広げ隊」
世話役の上田芳弘さんは「土つくりからネットの設置、肥料・水遣りときめ細かい世話をしなければいけないので気を緩められませんが、ゴーヤで“まちなかのみどり”をもっともっと増やしたいものです」と話しています。

お問合せ 090-9092-3909
上田芳弘さん



箕面4



石丸

「コスモス」

「秋桜」という和名をもつ秋を代表する花。可憐な花びらからはちょっと想像しにくいですが、原産は情熱の国・メキシコです。石丸や白島ではピンクや白、赤のほか紫のコスモスも群生しています。花言葉は「乙女の真心」、「純潔」。

園芸ワンポイント

● 秋咲のコスモスが咲かない!?

秋咲のコスモスが咲かないというお話を聞くことがあります。きっちりと管理した、つまり、肥料不足でもなく、窒素過多にもならず。また、花芽が出来る頃に灌水を控えて適切な水分状態を保っていた…にもかかわらず、花が咲かない?

ひょっとして、明るい街路灯や深夜まで営業しているお店の光が当たっていませんか?

秋咲きコスモスは短日性なので、太陽の日照時間が短くなるを感じて花が咲きます。夜中まで明るいと咲きません。品種にもよりますが、鉢を置く場所にご注意ください。



小野原東
6

「彼岸花」

名のとおり秋のお彼岸の頃に田んぼの畦道で一斉に真っ赤な花を咲かせます。ところが、小野原東6の遊歩道には赤い花に混じって2か所で白い花が咲いています。九州南部や高知県ではシロバナ彼岸花が自生しているといわれていますが、この遊歩道の彼岸花は、10年程前に、ご近所の方が植えられたそうです。

「まちなかの緑と花」あつめました!



石丸



如意谷

粟生新家

“花とみどりの街めぐり” 参加者募集!!

秋の小野原西を訪ねて、花のお庭などを眺めながら街歩き!

2012年11月4日(日曜日) ※小雨決行
午後2時~午後3時半頃 集合場所:「小野原西5丁目」バス停前
■お問合せ先: 090-5651-0259(佐藤まで)



▲6月に実施した粟生のお花の街巡りツアー

情報プランター

“花とみどりの街”へ計画づくり／プロジェクトみどり

箕面市と協働して「まちなか(平野部)のみどり」を豊かに!と取り組む市民組織「プロジェクトみどり」では、現在、『“まちなかのみどり”アクションプログラム(行動計画)』づくりを進めています。計画案では「花とみどりのまちづくり」「農のあるまちづくり」などを柱に、約20の主要プロジェクトを検討中。これらを進める仕組みとして「市民ファーム(農場)」「花とみどりの学校」(共に仮称)「コーディネーター組織」などについても話し合っています。

これらを話し合う

「わいわい会議」開催!

2012年11月28日(水曜日) 午前10時~ 場所:箕面駅前の文化・交流センター

お問合せ 090-9092-3909(上田) ★誰でも参加OK!

夢ふくらむ「新稻の森」・・市民が集まり議論

この5月に箕面市が土地を無償で借り誕生した山すその市民緑地「箕面新稻(にいの)の森」の活用を巡って、市民がアイデアを持ち寄り議論が進んでいます。20人ほどが集まり開かれてきた今までの活用検討会(事務局:NPO山麓委員会)では、子供たちの遊びや自然学習の場にしたい、みつばちの巣箱を置き箕面ブランドの蜂蜜づくりをやろうなど、自然を生かした提案が出ています。山林を入れた全面積が5ha、そのうち利用しやすい平地が約半分ととても広いので、複合的な利用になるとみられます。市民の夢は、大いにふくらんでいます。お問合せ 072-724-3615(NPO山麓委員会)



みどりの掲示板

菊が見ごろです！



昨年の菊花展

●毎年菊花展が開催されているをご存知ですか？

芦原公園入口のメイプルホール横で毎年菊花展が開催されているをご存知ですか？箕面菊花愛好会の皆様が出展しておられるのですが、会長の三原堅寿さんのお話ですと、展覧会に出すような直径30cmもある花を咲かせるには大変なご苦労があるようです。「茜雲」などの菊は根が弱いので育てるにも手間がかかり、開花時には雨に濡れてもいけないとか。そんなことで年々愛好家が減っていき、この菊花展もいつまで続けられるのか心配しておられるようです。今年も開催されますので、丹精込められた花を観賞したいですね。

菊の手入れをする三原会長▶



箕面市菊花展 連絡先 072-722-7331(三原)
10月28日～11月18日 場所：メイプルホール横

Column

緑のリサイクルを！

ボランティア袋。落ち葉や枯れ草を詰め込んだ袋が、ゴミ回収日に生ゴミと一緒に回収されていますが、あの落ち葉はいったいどうなっていると思います？結論から申し上げると、勝尾寺北東の山中にある市のクリーンセンターに持ち込まれて、焼却されています。箕面市に限らずほとんどの自治体が街路樹の落ち葉を生ゴミと一緒に焼却したり埋め立てに使っているのが実態です。しかし落ち葉や枯れ枝は地面に堆積すると、やがて腐葉土になり木に栄養を与えます。森や山では肥料をやらなくても樹木がすくすく伸びるのは、この「自然のリサイクル」が機能しているからです。しかし、新たな人手が要るうえ、落ち葉掃除の時、紙くずやタ

みのかわ 箕川に うなぎと蛍 戻る！

市東部を南北に流れる箕川にうなぎやヘイケボタルが戻ってきました。「箕川・水とみどりの会」(高山嗣彦会長)が、毎月2回雑草を刈り川の浄化に努めてきた成果です。

箕川はため池を源流に帝釈寺に沿うように蛇行していますが、24人のメンバーは毎月第2、4日曜に、そのうち粟生外院から粟生新家にいたる1.5キロの雑草を抜いたり、川を清掃しています。(=写真)竹やぶがせり出し



草に覆われ通れなくなつた道を、チップを埋め込んで“再生”もしました。おかげで帝釈寺周辺にはゲンジボタルに加えヘイケボタルも舞うようになりました。「うなぎが泳いでいるのを見たときはうれしかったですね。でも自転車を川から引き上げたこともありました」と会員の藤谷国治さん。

8年前からは、池田土木事務所の協力を得て市民から1本1500円のプレート代を受け取り梅の植樹も始めました。これまでに第6中学の卒業記念植樹を含め122本が川沿いに植えられています。「結婚30周年を迎えた」「昔は梅のことを『んめ』。母の名が並んだ」など思い思いのプレートが・・・。梅が散ると水仙の道、、そして秋にはコスモスが咲きます。



散歩してみてください。

バコの吸殻、時には空き缶などが混じっていることがあり、それを取り除くのに手間もかかるので、焼却しているようです。それではせっかくの“資源”がもったいない、と「瀬川緑地」や「外院南1号公園」、「小野原西4号公園」などでは近くの人が落ち葉を公園の一角に集めて腐葉土作りに取り組んでいます。12年間続けている外院南1号公園の場合、集積場を50cmも掘れば真っ黒な腐葉土になっており、近所の人が持ち帰って使えるようスコップもおいてあります。素晴らしい取り組みですが、市と住民が協働で落ち葉を腐葉土にするシステムをつくればどうでしょうか。その腐葉土をまた家庭に配る・・そんな「リサイクル都市」になれば街全体にますますみどりが増えることでしょう。

／＼ サポーター ／＼
／＼ 大募集!! ／＼

「みどりの街しんぶん」では、近くに綺麗なお花が咲いてるよ、みどりのスポットがあるよ、など“まちかどみどりの情報”を募集しております。お気軽に、ご連絡ください。お待ちしております！
情報ご連絡先 shimin.puroj.midori@gmail.com 090-5661-0259(佐藤まで)

